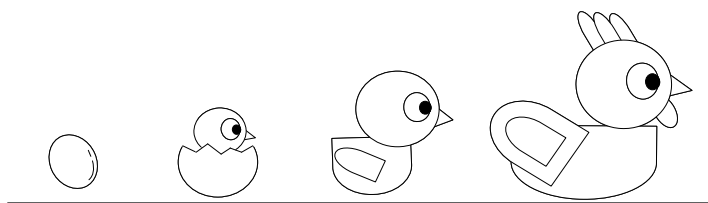


発達支援のための
チャレンジブック！

発達の気になる園児への対応に困ったら、このページを開いてください。

そこから、子ども一人ひとりに合わせた支援を発見するためのチャレンジの始まりです。



平成23年3月

神戸市発達障害ネットワーク推進室

はじめに

“発達支援のためのチャレンジブック”は、神戸市の保育士の方を対象に2007年度から始まった「発達支援リーダー養成研修」がもとになっています。全4回という長期の研修にもかかわらず、開始から現在までに100名近くの先生方に参加していただきました。

研修では、発達の気になる園児の支援を考えるための枠組みとして「行動のABC(ABC分析)」について学びます。行動のABC(ABC分析)は、園児の行動(Behavior)とその前の状況(Antecedent)と後の状況(Consequence)の頭文字をとったものです。研修に参加した先生は、研修を通して、気になる園児についてこのABCの観察を行い、それをもとに話し合いを行って支援を考えます。これまでの研修では、一人ひとりの子どもに合ったさまざまな支援方法のアイデアが生まれてきました。支援の振り返りでは、支援を実践した結果、子どものできるが増えた、困った行動が減った等のうれしい報告をたくさん聞くことができました。

この研修では、子どもへの「支援方法」はもちろんですが、それ以上に支援方法を考えるための「子どもの行動の見方・捉え方」を身につけていただくことに焦点を当ててきました。発達の気になる園児への支援においては、一人の子に対して効果的だった支援が、必ずしも別の子に有効であるとは限りません。有効だった支援が別の子に対しては、うまくいかない場合には、全く別の支援を行う必要があるかもしれませんし、その子に合わせて少し修正するだけでうまくいくかもしれません。万能の支援はないので、一人ひとりのお子さんに合わせて、新しい支援を考えたり、これまでの支援を修正したりすることが必要なのです。









チャレンジブックでは、一人ひとりの子どもに合った支援を考え、実践していくための方法についてご紹介します。それが、次から始まる4つのチャレンジです。これまでの研修の内容をギュッとまとめてこの4つのチャレンジを作りました。各チャレンジを実践していただくことで、研修に参加していただいた先生方と同じように、目の前のお子さんに合った効果的な支援のヒントが見えてくることでしょう。

最後に、チャレンジブックの使い方について説明します。本書は、前から「チャレンジ編」、「解説編」、「様式シート編」、「事例編」、「工夫紹介」と続いていきます。チャレンジ編は、実際に4つのチャレンジを行うための手順が書いてあり、解説編はその解説になります。様式編にはチャレンジを行う際に用いる各種のシートを載せてありますので、コピーして使ってください。事例編、工夫紹介は、これまでの研修の中での実際の取り組みを紹介したものになります。チャレンジブックは、どこから読み始めてもらってもかまいません。気になる園児の支援を考えるために、チャレンジ編を読みながらチャレンジを始めてもらってもいいですし、まずは事例編、工夫紹介を見て、これまでの先生がどんな支援をしてきたのか、どんな風にチャレンジを進めていったのかを見るのもいいです。もちろんチャレンジ編から順に読んでいただくのもいいです。チャレンジは、前から順に本書のすべてを読まないとはじめられないというものではありません。それよりもむしろ、本書を読みながらチャレンジを進め、チャレンジを進めながらまた本書を読むというように使っていくのが効果的かもしれません（もちろん全部読んでから始めたいという方はそれもOKです）。

ここまで読み進めていただいた先生は、もうすでに一步踏み出されました。一人ひとりの子どもに合った支援を見つけるチャレンジが始まったのです。好きなページを開いて、どんどん進んでいきましょう。Let's チャレンジ！

神戸市発達障害ネットワーク推進室スーパーバイザー
田中善大（関西学院大学）

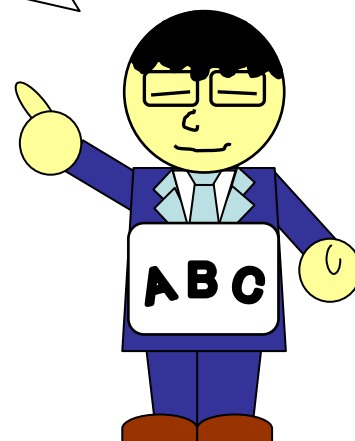
目次

チャレンジ編	・・・	P. 3	
 チャレンジ 1	: 取り組む行動を決める!	・・・	P. 4
 チャレンジ 2	: 行動のABCを観察し、記録する!	・・・	P. 6
 チャレンジ 3	: 記録をもとに支援を考える!	・・・	P. 8
 チャレンジ 4	: 支援を実施し、支援を振り返る!	・・・	P. 10
解説編	・・・	P. 11	
 チャレンジ 1	【ポイント1-1】: 行動を分類する	・・・	P. 12
	【ポイント1-2】: 行動を具体的にする	・・・	P. 13
 チャレンジ 2	【ポイント2-1】: 行動の原理を知る	・・・	P. 14
	【ポイント2-2】: “いいこと” は子どもによって違う		P. 16
 チャレンジ 3	【ポイント3-1～5】: 支援を考える上でのポイント		P. 17
 チャレンジ 4	【ポイント4-1】: 記録を使って支援の効果を調べる		P. 32
様式シート編	・・・	P. 36	
	事例検討シート、ABC分析シート、課題分析シート、 行動の記録シート		
事例編	事例1～事例6	・・・	P. 41
工夫紹介	工夫1～工夫11	・・・	P. 55

チャレンジ編

「気になるな」「困ったな」と感じる園児の行動に対して、どう対応していいかわからない、支援のアイデアが浮かばない等で悩まれたら、まずはこのページを開いてください。

4つのチャレンジを1つずつ行うことによって、目の前のお子さん一人ひとりに合わせた支援を見つけることができます。



取り組む行動を決める！

- 「事例検討シート」に対象児の状況を記入して、取り組む行動を決めましょう -

☆ まずは、現在の対象児の様子を「事例検討シート (P. 36)」に書き出して、整理しましょう。頭で考えていると漠然として整理しにくいことも、書き出すと意外にスッキリすることは多いです。難しく考えずに、思いつくことから書いてみましょう。

事例検討シート

1. 対象児について記入してください。

性別 / 年齢 / クラス (男 ・ 女) / (才 月) / (歳児クラス)

2. 対象児について、保育園での気になる行動または困っている行動を具体的に記入してください。

- ・ ○○○しないこと
- ・ △△△すること
- ・ □□□すること

①：困った行動を書き出す

どんな行動が対応に困ったり、気になっていませんか？

⇒ 事例検討シートに、対象児の困った行動、気になる行動を書き出してみましょう。

* 記入した行動の中から、今回取り組む行動を1つ選んで丸をつけてください。

3. 対象児について、保育園で期待される（大半の園児ができてい）行動のうち、できているもの（支援付きを含む）があれば具体的に記入してください。

- ・ ○○○ができる
- ・ ☆☆☆ができる
- ・ ▼▼▼ができるときがある

②：できている行動を書き出す

保育園で期待される（大半の園児ができてい）行動のうち、対象児ができていことは何ですか？

⇒ 事例検討シートに、対象児のできている行動（支援付きを含む）を書き出してみましょう。

③：取り組む行動を決める

まずはじめにどんな行動に取り組みますか？

⇒ ①で、事例検討シートに書いた行動の中から1つ選びます。
【次のページに実際に取り組んだ行動を紹介しています】

研修で取り組んだ行動

- ・何でも一番でないと泣いてできなくなる（事例1）
- ・部屋から飛び出し、園庭や他の部屋へ行く（事例2）
- ・一日に何度も暴言（バカ、ジジイ、ボケなど）を言う（事例3）
- ・日常の生活の流れの中で、イレギュラーな活動が入ったり、突発的な出来事が起こったときに動揺し、活動が止まってしまう（事例4）
- ・すぐに暴力をふるってしまう（叩く、蹴る、物を投げるなど）（事例5）
- ・身の回りのことが集中してできない（事例6）
- ・ロッカーの上に登る、棚の上に登る（工夫1、工夫2）
- ・部屋から出てベランダからおもちゃを投げる（工夫3）
- ・友達とかかわって遊ぶ（工夫4）
- ・「キー」と大声を出し、大泣きする（工夫7）
- ・してはいけないときに、水道で遊ぶ（工夫11）





行動のABCを観察し、記録する！

- 対象児を観察して、「ABC分析シート」に記入しましょう -

- ☆ 取り組む行動が決まったら、次にその行動が起こる（起こらない）場面の観察を行います。観察したことをA（行動の前の状況）、B（行動）、C（行動の後の状況）の3つの枠組み（「ABC分析シート（P. 37・38）」）で整理するといろいろな支援のヒントが見えてきます。ここでは、4つのチャレンジの中心となる「ABC分析シート」の書き方・使い方をご紹介します。

ABC分析シート		観察者：S先生
対象児：M（男児）	担任：T先生	パート担任：Y先生 主任：S先生
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[朝・部屋・自由遊び] S先生：Mくんに「おはよう」と言う。	「おはよう」	S先生：「元気ないあいさつやね」
[朝・部屋・自由遊び] T先生：Mくんから離れたところで、他の園児と話をしている。 "	机の上に登り、大きな声で「あー」と言う。 机から降りる。	T先生：Mくんの側に行き、「降りなさい」と言う。 T先生：「ちゃんと降りれて、えらいね」
[時間帯・場所・クラスの活動] △くん：～する。 ○先生：～する。	～する	○先生：～する △くん：～する

《ABC分析シートの書き方・使い方》

1

取り組む行動を観察・メモする

『チャレンジ1』で決めた取り組む行動の観察を行います。観察した内容を後でABC分析シートにまとめるために、ここでは、簡単なメモを取ることをお勧めします。

メモには、対象児の行動だけでなく、その行動の直前にあったこと（先生の指示、周りの園児のかわりなど）と、行動の直後にあったこと（先生の対応、周りの園児の反応など）も書きます。

*もし、取り組む行動が『減らしたい行動』なら…

取り組む行動が、友達を叩く、お部屋を飛び出す等の『減らしたい行動』の場合は、その行動が起こった「×」の場面に加えて、その行動が起こらなかった「○」の場面も合わせてメモしておいてください。いつもなら困った行動（減らしたい行動）をしそうなときに困った行動をしなかった場面（「いつもなら叩きそうな場面で叩かなかった」「この課題のときはいつも飛び出すのに今日は飛び出さなかった」など）にもたくさんの支援のヒントが隠れています。

*もし、取り組む行動が『増やしたい行動』なら…

取り組む行動が、全体指示で動く、片付けをする等の『増やしたい行動』の場合は、その行動が起こらなかった「×」の場面に加えて、その行動が起こった「○」の場面も合わせてメモしておいてください。「×」の場面と「○」の場面のA（行動の前）とC（行動の後）を比べることによって、その子に合った支援が見えてきます。

2

メモをもとにABC分析シートに記録をまとめる (事例編も参考にしてください)

観察・メモを行ったら、いよいよABC分析シートに記録をまとめていきます。何度も書いていくと書きやすい方法が見つかってきますが、ここでははじめての方にお勧めの書き方をご紹介します。

○まずは、対象児の行動を **B** の欄に書きます。

Bの欄には、対象児の行動のみ書きます。先生や他の園児の行動は、AとCに書きます。また、対象児の行動はすべてBに書くので、AやCに対象児の行動は書きません。対象児の行動を書くときに、否定と受け身に注意してください。

【否定】指示で動かない、片付けをしないなど「～しない」という表現を使う場合は、それをせずに対象児が何をしているのかまで書いてください。片付けをせずに、別のおもちゃで遊んでいるのか、それともお部屋の中をうろうろ歩いているのかまで記録してください。

【受け身】友達に叩かれた、先生に注意されたなど「～された」という表現は、対象児の行動ではなく、周りの人の行動になりますので、AやCの欄に書いてください。Bの欄には、叩かれたときの対象児の行動(泣いたなど)や叩かれる前の対象児の行動(友達のおもちゃをとったなど)を書いてください。

○次に、対象児の行動が起こった直後の様子を **C** の欄に書きます。

対象児の行動が起こった後どんなことがあったかをC(行動の後)の欄に記入します。対象児が友達を叩いてしまったとき、友達はどんな反応をしましたか？先生は叩いたことに対してどんな対応をしましたか？行動の直後にあったことを具体的にCの欄に書いてください。

○最後に、対象児の行動が起こる直前の様子を **A** の欄に書きます。

対象児の行動と直後の状況を書いたら最後に、対象児がその行動を行う直前の状況をA(行動の前)の欄に書きましょう。対象児が友達を叩く前に、その友達は何をしていましたか？先生はどんな指示をしていましたか？行動の直前にあったことを具体的にAの欄に書いてください。また、そのときの状況(時間帯、場所、クラスの活動等)も合わせてAの欄に記入してください。

A と C の書き方のポイント

【人物ごとに書く】

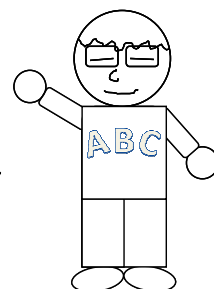
AとCを書くときは、長い文章で書かずに、登場人物ごとに箇条書き(「D先生が〇〇した」「友達のEくんが〇〇した」など)で書いてください。また、AとCの欄には、対象児の行動を書かないようにします(対象児の行動はすべてBの欄に書いてください)。

【ABCを続けて書く】

ABCが続くときは、下の段に書いて、矢印を使ってそれをつなげて順序を示してください。

「ABC分析シート」を書いていると、観察できていなかったり、忘れてしまっていることに気づくことがあります(園児が行動する前に何があったかな？行動した後どんな風に対応したかな？など)。観察できていないことに気づいたら、そこが次からの観察のポイントになります。

ABC分析シートで、「観察できていない」ポイントに気づいたら、それも支援に近づく大きな一歩です。





記録をもとに支援を考える！

- ABC分析シートの記録を見ながらたくさんのアイデアを出しましょう -

☆ ABC分析シートに記録を行ったら、いよいよ支援方法を考えます。
ここでは、ABCの記録を使って、支援を考える際の手順とポイントをご紹介します。

👉①記録を選ぶ

- ・取り組む行動が起こった（起こらなかった）場面のABCの記録を1～3つ選びます。
「いつも〇〇のときに～してしまう」といった、よくある場面のABCの記録を選ぶようにしましょう。

👉②理由を考える（話し合う）

- ・ABCの記録を選んだら、次に、どうしてその行動が起こったのか（起こらなかったのか）を考えます。どうして対象児は、その行動をしたのか（しなかったのか）をA（行動の前）やC（行動の後）を見ながら考えます。
- ・考えるときのポイントは、記録を見ながらできるだけたくさんの理由を考えることです。1つの正解を探すよりも、まずは、いろいろな可能性を考えます。考えたものは、どんどん書きとめていきましょう。

👉③支援を考える（話し合う）

- ・理由を考えたら、その場面でしてほしかった行動（増やしたい行動）を考えます。困った行動の代わりにしてほしい行動を考えて、同じような場面で、その行動が起こりやすくなるような支援、その行動を増やす支援を考えます。困った行動が起こってからの対応ではなくて、困った行動が起こる前の支援（予防的な支援）を考えましょう。

「もし同じ場面があったとしたら、困った行動が起こる前にどんな支援（かかわり、環境設定など）ができると思いますか？」

「もし困った行動が起こる前に時間を戻せるとしたら、どこまで戻して、何をしますか？」

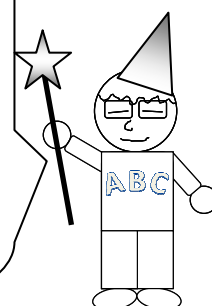
ここは、魔法の保育所です！

◎ 支援方法を考えるときは、できるだけたくさんのアイデアを考えましょう。実現できるかどうかよりもまずは、頭を柔らかくして、たくさんアイデアを出してください。

※ 「ここは、魔法の保育所で、人、物、場所、時間…自由に使えます。
さあ、みなさんならどんな支援をしますか」

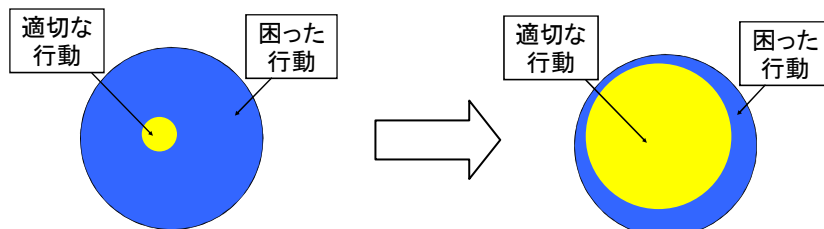
◎ 出てきたアイデアは、とにかく書きとめていきます。
たくさんアイデアを書きとめたら、そこから実際に行いたいものを選んで、より現実的な支援にしましょう！

※ 無理は禁物です。しっかり、続けられる支援を考えましょう。



支援を考える際のポイント

「困った行動（×）を減らすために何ができるか？」と考えるよりも、「適切な行動やできる行動（○）を増やすために何ができるか？」という視点で支援を考えることが、支援を考える際の大きなポイントになります。
適切な行動が増える（○）と、困った行動（×）も徐々に減っていくのです。



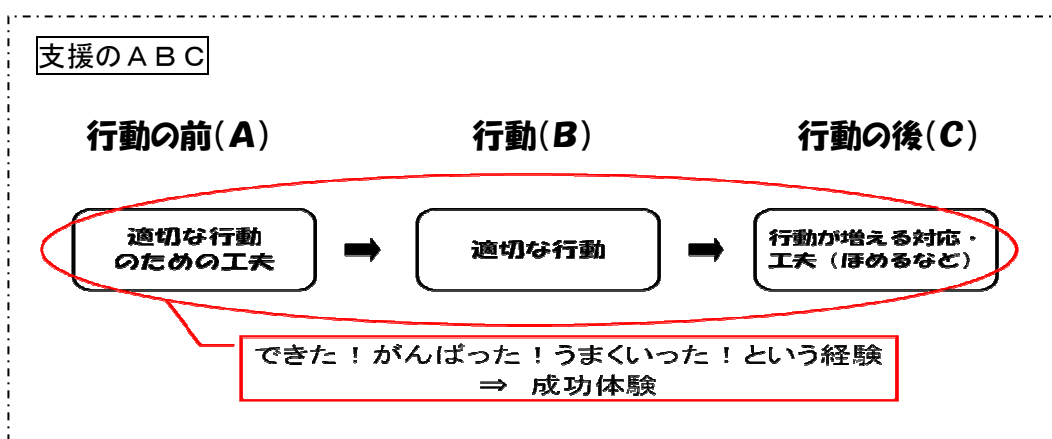
予防的な支援：『○』を増やす支援が大切！！

“困った行動が起こったときにどうしたらいいか？（事後的な支援：「×」への対応）”よりも、“困った行動が起こる前にどうしたらいいか？代わりにしてほしい行動が起こるように何ができるか？”という視点で支援を考えましょう。

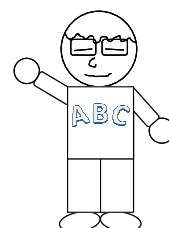
支援の目標

先生方の多くは、園児に「できた！がんばった！うまくいった！」という経験をたくさんしてほしい、その中でいろいろなことを身につけ、学んでほしいと考えているのではないのでしょうか。

園児に合わせた支援を実践し、成功体験を増やす中で、子どもの「できる」を増やしていくことこそ、私たちの支援が目指す目標になります。この目標をABCで表したものが下の図になります（「支援のABC」）。



園児のできた！がんばった！うまくいった！という経験(成功体験)につながる“支援のABC”をどんどん増やし、その中で園児の「できる行動・適切な行動（○）」を増やしていきましょう！





支援を実施し、支援を振り返る！

- 支援中のABCの記録をつけて、記録を見ながら支援を振り返りましょう -

- ☆ 支援を考えたら、実際に行ってみましょう。支援を行う際にも、ABCの記録を行い、2週間から1ヶ月間がたったら、その支援がうまくいっているかどうかを振り返りましょう。

○もし支援がうまくいったら…

- ・うまくいった支援のABCを見ながら、別の場面や別の行動にその支援を広げてみましょう。うまくいった支援の記録には、次の支援のヒントがたくさん入っているのです。
- ・うまくいった支援のABCを使って、別の支援者の方に広げていきましょう。せっかく発見した支援を一人で貯めておくのはもったいないです。同じクラスの先生に、同じ園の先生に、という形で広げていけば、一貫した支援を行うことができ、より効果的です。
- ・うまくいった支援は園の先生だけでなく、保護者の方にもお伝えしましょう。園と家庭での支援を一貫することができれば、支援はもっともっと効果的なものになります。

○もし支援がうまくいかなかったら…

- ・うまくいかなければ、記録を見ながら、また次の支援を考えて、試してみましょう。次のチャレンジの始まりです。
- ・試して、またうまくいかなければ、また次の支援を考えて、試して、考えて…「やった！うまくいった！」を目指しましょう！
- ・うまくいかないということも、支援を試してみないと分かりません。もしうまくいなくても、そこから見えてくる次の支援のヒントがあります。また、この支援はうまくいかない、合っていないということが分かったという事自体も貴重な発見です。
- ・支援をして、もし思ったようにうまくいなくても、それは後退ではありません。何もなかったときよりも何歩も前に進んでいます。失敗を恐れず、次の支援を考えてください。

